

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人野の花会 グループホーム もう一つの私の家 などで
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県南さつま市加世田村原1丁目9-6
記入者名 (管理者)	松村 日子
記入日	平成 21 年 3 月 1 日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念を中心に地域の中でその人らしいありのままの暮らしを支えるサービスとして年度テーマを決め、管理者・ケアスタッフと共にグループワークで作っている。</p>	<p>法人の基本理念をベースに地域の一員として積極的に地域への参加をしていきたい。(行事・便りを含む)</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>年度ごとのテーマを決め、具体的な重点目標をスタッフ全体で話しあい作り上げている。また理念やテーマを共有し日々のサービスに意識して取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営理念を明示したパンフレットや広報誌を家族に送付し、地域へ配布も行いながら、全ユニットと家族・地域を巻き込んで楽しむ行事を実施するなど自然に理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	<p>全ユニット・家族・地域とともに秋祭り・Xmas会・あくまき(地域の行事菓子)の作成販売をおこなってきました。今後もあその過程も大切にしながら発展させながら継続していきたい。</p>
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日々の生活の中で(散歩・菜園づくり・買い物など)ケアスタッフだけでなく入居されている方も笑顔で挨拶や会話を交わし地域に馴染みつつある。隣接された「癒しの庭」は地域の人々に開放され交流の場となっている。</p>	<p>地域の中でひとつの家として存在できるようより良い関係作りに努めたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>日々の関わりから参加している。行事について同法人事業所・ホームを中心に催すなど積極的に関わっている。</p>	<p>○ 細分化された昔馴染みの老人会などに今後も継続して参加できるよう家族への理解にも取り組んでいきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人には、講演や介護予防教室・2級ヘルパー講習の実績がある。また認知症相談会外部の専門家を招いて実施している。		左記実績のノウハウや入居者・職員特技を生かし、より地域に密着出来るようなことを計画していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果は定例会でケアの見直しと共に「どのようにすれば、より入居者の暮らしが豊かになるか」をスタッフ全員で見直し検討している。結果は責任者とも協議し年度理念・目標に活かされている。またそれがスタッフの励みとなっている。		法人及び管理者を含めスタッフが参加する会議の中で理解し共有する中で随時検討されている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っており活用されている。入居者・家族からの意見で共用スペースの改善より暮らしの細かいことから入居者・地域に喜ばれるサービスにつながっている。		今後も地域の声を取り入れたサービス向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービス移行後は、特に市との関係・連携を深めており、相談にも行き来している。		行き来には担当者により変動もあるが、働きかけは継続し市町村とともにサービスの質の向上に活かしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設外研修で学んでおり、法人全体で必要な人にはそれらを活用できる体制が整っている。		今後は認知症の専門事業所として制度を利用される方も増えてくると考えられる。具体的なサービス利用についての知識を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の母体である特別養護老人ホームで開設当初から基本として取り組んできた実績があり、管理者・スタッフは採用後必ず基本として学ぶ環境にある。身体的虐待が無いことは当然であるが日常の言葉も敬意を持ってあたっている。		法人理事長は全国での虐待防止マニュアル作成に関わるなど積極的に取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は利用者や家族に不安がない様管理者・ケアスタッフで説明を行い実際の暮らしの内容を十分に理解・納得していただけるよう対応を心がけている。また解約に関しては法人内のソーシャルワーカーや居宅ケアマネージャと連携し今後の不安がないよう対応に心がけている。</p>	<p>○</p> <p>入居時は納得されるが長年入居される方の中には家族の思いが施設化する方もおられる。日々の生活も合わせながら家族会などで確認を行いお知らせしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に重要事項説明書により苦情相談窓口の担当者があることを書類・口頭で説明している。法人内み第三者委員も設置しており第三者も交えた家族会や運営推進会議も定期的に行っている。認知症状により理解が出来ない方に関しても普段の会話の中からスタッフで汲み取る配慮をしている。</p>	<p>外部の声を適切に反映出来るようなシステム作りに努めている</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者様の様子は、訪問時だけでなく電話など小まめに連絡している。また職員の異動に関しても家族会で報告し訪問時に確認できるように常時各ユニットでスタッフ紹介冊子を掲示している。</p>	<p>個々の健康状態の変化は随時行っている。家族会でもご家族の意見や要望は活発な意見交換が行われている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に重要事項説明書により苦情相談窓口の担当者があることを書類・口頭で説明している。また法人内に第三者委員も設置し第三者も交えた家族会や運営推進会議も定期的に行っている。玄関口のわかりやすい場所にはアンケートを用意している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回、運営者・管理者を含む全スタッフ出席の定例会を設けており運営・サービス内容などともに協議している。</p>	<p>今後も家族や入居者様の希望を聞きながら改善していきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>各ユニットの状態や生活の流れに沿い、スタッフ人員を確保しており欠員スタッフが出た場合はユニットで協力して安定を図れる態勢を整えている。また何らかの理由で体制が不安定になった際にもすぐに相談できて対応が出来ている。</p>	<p>突発的な時こそ、速やかに対応出来るよう、全員が心得ている。法人内でも緊急要請を求められるシステムがあり、出来て当然のことと認識している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は変更無いため、利用者適正を見ながら配置している。家族との関係も良好に保っている。職員の異動についても利用者への配慮を十分に行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員教育プログラム、職務基準書など作成し育成の為に研修を実施している。施設外研修についても参加の機会を多く持てるよう受講案内をしている。	認知症指導者が同じ法人に勤務している為 指導者を中心とした定期の研修会を開催している。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県の認知症研修の実習施設として指定されている為、同業者との交流が多く持てている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	建物から離れたところに休憩室を設け 利用出来るよう環境を整えている。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	同一法人内で、ヘルパー講座を行っている。また有資格者がそのノウハウを伝えることで少しずつ知識を深めつつある。	認知症ケア専門士など、専門資格取得のための学習会を進めるとともに質向上に努めていきたい。
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談時に法人内共通のフェイスシートに本人の身体状況や環境・生活歴・相談内容を記入し分析し本人の思いを大事にした関わりを大切にしている。特に入居時は不安や寂しさを感じないようスタッフとの関わりを大事にしている。	ご本人、ご家族の思いを受け止め複数のアセスメントシートを併用するスタイルでよりよい関係作りに努めている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談のあった時点で家族などの思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの実現に努めその事は法人内共通のフェイスシートに相談内容を記入し分析している。また介護疲れなどからくるか体力・精神的苦痛にも配慮した対応を心がけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に関わった居宅ケアマネージャー・ソーシャルワーカーとも協力し本人と家族に必要なサービスを見極めホーム入居までの支援に努めている。		相談を受理した担当のみで対応せず、すべてのケースでこの機能が十分に発揮できるようすすめたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様に馴染みそうな環境に近いユニット(生活歴・入居者の知人の有無・共通の地域や関係性の深い土地性などから配慮)を提案し本人・家族に気軽に訪問していただき安心できるよう配慮している。また入居後も家族と相談しながら馴染みの環境となるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で喜怒哀楽を共有している。スタッフは昔のしきたりや郷土料理、本人の特技(編み物など)を教わることも多く、本人の語る人生からも学び得るものは大きい。入居者間の思いやりある言動や、スタッフも含めた互いへのねぎらいの言動など暮らしの支えとなっている。		その過程を大切に今後のケアに努めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの関わりの中ではもちろん、行事に関し企画運営を入居者・家族・スタッフで始めたことで喜怒哀楽の喜びと楽しみを共有する事ができ、その距離も近くなってきている。また、家族状況に合わせ負担にならないよう配慮や介護に関する悩みの傾聴も行っている。		どんな小さなことでも自分も参加しているという認識を自身で感じながら、生き生きとした生活をしていただけるよう、様々な情報のヒントを得ながらケアに努めたい。また入居者の喜びを共有していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者だけでなくご家族とも良い関係が築かれている。		更に、よりよい関係が築けるよう継続し関係作りを深めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暮らしの中に根ざした商店の利用などはもちろん、親戚・家族の行事、地域行事やお墓参りなど家族の理解と協力のもとに支援している。我が家としての良いわがままは通るよう、スタッフを配置し一人ひとりの思いに添い実現できるように支援に努めている。		以前よりも血縁者・近所の方などの訪問客が増加しており喜ばしい傾向にある。今後も継続して支援したい。また、わがままを受容でき自己実現につなげるスタッフを育成出来るよう努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	地域の中で育まれた関係やホームで築かれた関係などに留意しその変化にも配慮し支援している。日々の暮らしが安定しておりお互いが支え合う環境になるように努めている。		交流の際も食卓の席・居室位置全て入居者同士の関係性や関係づくりに配慮して行い、関係が深まりつつある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	スタッフも施設・病院の訪問、電話などで近況の確認など行い本人・家族が不安にならないように心がけている。要介護度の変化や入院などで退去されても本人・家族がホームでの暮らしを切望することが多く、法人内の他施設や居宅ケアマネージャーの協力も得ながら関わっている。		継続的な関わりを必要とする利用者は、条件が整えたいほぼ再入居となっている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通のフェイスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを活用し把握に努め本人本位に検討している。		33・34・35についてはグループホームでのケアの基盤と捉え全ユニットスタッフで把握に努めている。又、「その人を知る」ためのスキルを高める為の内部研修を同法人スタッフでもある県の認知症研修指導者の指導のもとに行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通のフェイスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを行い、その方の人生を把握するように努めている。		継続し、その人らしい暮らしを支援していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の家での日常に関する把握はもちろんであるが、ホーム入居後はモニタリングを行い一日の過ごし方、心身状態、有する力など各専門スタッフからの情報も取り入れ総合的に把握するように努めている。また日々の経過も記録されている。		暮らしの継続性や個々の暮らしへの思い「暮らし」を支援する意味を日々のケアに生かしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフも交えた本人・家族との日々の会話・、スタッフ間で毎日行われているミニカンファレンスの中で話し合われている。その内容、専門スタッフの意見なども反映し定期的なモニタリングとサービス担当者会議で検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題ごとに必要期間を設定し、見直しを行い時期課題につなげている。又、状態変化には随時、本人・家族・必要な関係者と話し合い検討し現状に即した新たな計画を作成し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録しミニカンファレンスにて情報を共有し活かしている。またケアプランの評価を見直し後の介護計画にいかしている。		各ユニットスタッフで個々の日々の様子をどのような形式の記録で継続したケアが行えるかグループワークで検討したところ現在の記録になっている。今後も見直しを行い検討していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「もう一つの私の家なでしこ」はグループホームであり事業所としては多機能性は持ち合わせていないが法人が特別養護老人ホームを母体に理念を統一したサービスを展開しているため要望に応じた柔軟な支援ができています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。又ホーム全体でもいろいろな地域資源と協働できるように働きかけを行っている。		地域の一員としての「いつも心にあるなでしこ」を目指し、ボランティア・警察・民生委員・教育機関などすべての行事にお呼びして深い関係を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じてリハビリなど医療サービスとの連携など支援されている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。		ケアマネジャーとの連携は日常的に行っており、相互が適切に地域資源にリストを作成している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にいままでのかかりつけ医との関係を持続できるように支援している。又かかりつけ医の無い方や遠方で緊急の受診の困難な方には不安のないように適切な医療を受けられるように支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	同法人内にクリニックがあり、認知症専門外来を行っている。専従のドクターがいるので安心して相談できる環境にあり、利用者も診断や治療を受けている。	ほとんどの方が認知症外来を受診され「脳リハビリ」を提供している。今後、受診されていない方も家族に呼びかけ支援していきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	同法人内にクリニックがあり相談できる環境にある。又かかりつけ医の看護職の方にも日常の健康管理や医療について相談し支援をしている。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院後は定期的に連絡を取りご本人、ご家族の退院後の不安がないよう支援している。同法人内のソーシャルワーカー・居宅ケアマネージャーとも連携し退院後のサービス利用について早期に相談援助をすすめている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化や終末ケアについては入居時及びその後の必要時に話し合い事業所としての方針、これまでの取り組みなどに説明している。	法人内の特養・クリニックは平成2年から終末期医療を家族と行っている。経験を積んだ看護師との関係も深く在宅支援診療所もあり、整った環境にある。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	同法人内のチームで行う定期的な会議にて情報を共有しながら今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療との連携は不可欠である為、かかりつけ医や訪問看護ステーション等チームとしてのシステム化に取り組んでいる。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	事前に話し合いを行い介護情報提供書でホームからの情報を提供している。また、本人の混乱につながらないよう、十分に心を使いながら、慎重に判断を行っている。	ユニットの移動の際は前以って関わるスタッフと顔なじみになるよう配慮し、本人へのダメージをなくすよう十分な検討を行っているこのことは、スタッフをはじめ、関わる人々も最も大切にしていることである。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>法人で個人情報保護協定を作成しており規定に従い情報の取り扱いを行っている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>またお買い物での好物の購入などおひとりお一人の状況に合わせて日常的に楽しめるように支援している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の誘導の必要な方は排泄パターンの把握に努め適時にプライバシーに配慮を行い誘導している。夜間も失禁の不快感がないようにおひとりお一人に合わせて適時ケアを行っており昼夜を問わずオムツ・リハビリパンツの使用は行わない事を前提に排泄に取り組んでいる。又各居室にトイレがあり安心して排泄できる環境になっている。		各居室にはトイレ洗面所が整備されている為、個々の状態に応じた排泄ケアの取り組みも実現しやすい環境となっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、年中いつでもで入浴できる体制となっており、時間帯に関しても現在は主に午後からの入浴が多いが24時間、希望があれば入浴できる。体調不良でなければ個浴でゆっくり楽しんでいただき、くつろげる雰囲気大切にしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	おひとりお一人に合わせて対応されている。休息に関しても閉じこもり孤独感に配慮し見守りを行い昼夜逆転につながらないように気持ちの良い睡眠につなげる努力をしている。夜間も夜勤スタッフが安心して眠れるように昼から継続した対応で行っている。	○	その日の状況により不安を持たれる方もおられる。その方の負担にならないよう日中の活性化を図り、家族の協力も得ながら 入居されている方が安心して休んでいただけるよう努めたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味や生活歴から役割・楽しみを共に模索し支援し常に自信を高めるような言葉かけや働きかけを行い喜びにつなげている。日常的にドライブ・外食などの気晴らしも行っている。		今後も可能性を含めて、本人の希望も傾聴しながら「脳いきいきリハビリメニュー」を作成し展開していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフは、本人がお金を持つことの大切さを理解しており金銭の管理が出来ない方も家族の理解を得て、小額のお小遣いを持っていただき買い物時に、ご本人がお財布からお金を取り扱い好みのものが購入できるように支援している。		今後も外出する機会を通し、不安をもたれることのないよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の思いに添い支援している。毎日のお買い物・散歩はもちろんドライブ・サテライト・外食・地域行事への参加・家族との外出など選択肢を広く外出する機会を多く支援している。		ヒーリングガーデン(癒しの庭)や寝たきりになら連(介護予防の室外運動公園)も近くにあり、戸外での活動を楽しめるような工夫もなされている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得ながら支援している。グループでのドライブ・外食・文化施設への外出もあり外出する機会を多く持つよう支援している。		家族を交えた地元の祭りへの参加も行っている。本人の希望を大切にし、地域資源を活用し家族の協力も得ながら行っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話の取次ぎや手紙・ファックスの受け取りはもちろんであるが個人で電話が自由にできるように3階に馴染みのピンク電話を設置している。又、利用可能な方には携帯電話も勧めている。		遠方の方は、家族より頻回に便りのある方、贈り物が届く方もおられ家族との交流は深い。しかし、中には疎遠になりがちの方もいる。その方に気づかれることのないよう、細かな報告も行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	スタッフ・本人・家族からも働きかけて気軽に訪問できるように努めている。又玄関まわりも季節の花や庭木を植えるなど家庭的な雰囲気に整え日中は玄関を開扉しており誰でも訪れやすい環境づくりに心がけている。共同スペース・居室でもくつろげるように心がけておりお茶道具なども自由に使えるように準備し言葉かけに努めている。		ご家族と共に 馴染みの近所の方や長寿会の方など徐々に来訪も増え、なでしこは「もうひとつのお家」として定着しており、ホームという考えから脱却出来そうな感じである。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に深く関わっており大切にに取り組んできたことである。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、法人一丸で取り組んできたノウハウの継続に努めケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人の理念に深く関わっており大切にに取り組んできたことである。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、法人一丸で取り組んできたノウハウの継続に努めケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々の暮らしの中でスタッフが連携しお一人一人の様子を把握しながらさりげない関わりを持つことで安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	おひとりお一人に合わせた危険を防ぐ取り組みを行っている。針道具・はさみ・かみそりなど管理の困難な方だけお預かりしているが本人の必要な時は安全に利用できるように支援している。洗剤等は誤飲のないように大型の容器は扉のある安全な場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルも作成されており知識の共有を図り、想定訓練も含め勉強会で知識を学んでいる。またケアの中でヒヤリハットや法人独自の事故報告書で一人ひとりの状態に応じた事故防止・再発防止に取り組んでいる。		起こってしまった事の対応はもちろん予防も大切に考え日々の暮らしの中に転倒予防体操・嚥下体操・パワーリハビリなど個々に楽しく取り組んでいただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルもできており緊急対応されている。またケアワーカーも必要最低限の対応ができるよう、定期的に法人内で行われる応急手当の講義・実技に参加し落ち着いて確実に実行できるように繰り返し学習している。		急変時は医師が24時間対応できる体制を整えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いろいろな場面を想定し定期的な防災訓練を行っている。過去の長崎での火災事故よりスタッフ・市職員の防災意識も高まっており運営推進会議でも協議を行ったり地域の人々の協力を得られるように働きかけに努めている。	○	今後は地域の協力のもと、火災発生時の協定書を結び地域の方々への協力をお願いしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、おひとりお一人の様々なリスクについて日頃より十分な話し合いをしてご理解いただき、日々のケアの中で対応策を講じ抑圧感のない暮らしを支えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定・体調の変化やサインを記録し情報を共有するとともに、スタッフは、全身で変化や異常のサインを受け止めるよう努めている。又、昼夜、Drに相談できる体制があり早期対応が適切になされる環境が整っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により正確に服用されるように、おひとりお一人の服薬関連のファイルを作成、記入することでスタッフが理解できるようにしている。又おひとりお一人の力に配慮した関わりで服薬の支援を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼ることなく適切な食事・運動・水分補給で便秘予防に取り組んでいる。水分は1日に1500CCを目標にその方に応じて朝の冷たい牛乳・お茶寒天も取り入れている。以前、薬を処方されていた方も医師と相談しながら減らしていき自然でスムーズな排泄のリズムを取り戻されている。		認知症の周辺症状を出来るだけ改善する為にも便秘や排泄ケアは特に配慮し取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	同法人内の歯科衛生士の指導により行っている。毎食後、おひとりお一人の口腔の状態・本人の力に合わせた支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残して把握している。栄養バランスについてもスタッフ勉強会での知識の共有を図り同法人の管理栄養士からの助言などで適切に確保できている。また、ホームで用意する食品以外の親しい方からのお心遣い・贈り物・買い物などの摂取量の把握にも努めその後の様子からバランスをとっている。		食材の使用量、献立表を必要に応じて管理栄養士へ提出、栄養価についての検討がなされている。水分摂取量については個々人の摂取量を把握し、記録しサービスへ反映させている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり法人内の医療スタッフによる勉強会への参加などで全スタッフが実行できる体制となっている。		感染症やまん延防止についてのマニュアルを作成し現状に応じて定期で見直しを行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は毎日の買い物で新鮮なものを選択し、調理器具は洗浄乾燥、定期的なハイター消毒、熱湯消毒を徹底している。又、冷蔵庫内についても定期的に清掃を行っている。		食材の使用日を記入し安全な食材の管理に努めている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体も「この建物は何かしら？」と夢や興味を持っていただけるような外観を擁しており、周囲は季節の花や庭木を植えるなど家庭的な雰囲気を整えるとともに日中は玄関を開扉し、独自に併設している庭園も地域に開放するなど誰でも訪れやすいような環境づくりに心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・天候や時間に合わせて配慮している。調度や備品は入居者にふさわしい品を配慮し調えている。フローアの装飾も入居者と共に配置したり家庭的な雰囲気になっている。又、季節行事の馴染みの装飾・楽しい装飾など入居者とともに楽しんでいる。	○	入居者の趣味や手作り作品も配置し入居される方とより家庭的な雰囲気を作っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下のスペースをソファーや予備の椅子、観葉植物などで必要に応じた模様替えが行えるようになっており各々に和やかな語らいの場や穏やかにひとりで過ごせる空間も確保できている。		ご本人が、模様替えをされることもある。居心地の良いと思える環境作りを支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは、自由である。また、基本的な家具はホームにて準備している。入居時にご家族へ馴染みの物を持参するよう呼びかけている。大切なもの・思い出の品・使い慣れた道具の持ち込みもあり居心地よく過ごせるよう環境が整っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節・天候や時間に合わせて適切に行えるように努めている。各室にトイレが設備されているが設計上も換気に配慮されており、爽やかな環境が保てている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活に関わる場は同法人内のクリニックのPTの助言を取り入れた自立支援を目指した設備設計となっている。またおひとりお一人の身体機能の変化に合わせ、ケアの内容とともにPT・専門スタッフと検討し安全を保ち自立した生活を送れる環境づくりを行っている。		居室にはトイレも備え出来るだけ自立した生活を支援している。法人には、理学療法士も数名おり、身体機能に応じた環境作りも継続していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室や共有空間の装飾は明るい優しい色彩を使用し、やわらいだ気分の中で過ごせるように配慮しており毎日のケア・清掃などの中で混乱の原因をつくらぬよう心がけている。又、認知のための表示については症状に合わせたケアで自尊心を大切にあらさまな表示を避け、さりげないケアで混乱を防ぐための工夫をこらしている。		自分の好みでお部屋を飾れる方は十分に楽しんでいただき、本人の考えや好みに基づき支援する事が大切だと思う。環境による混乱のないよう自尊心を大切に工夫しながら、寄り添いながら、見守っていきたい。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	独自に併設している庭園や1Fテラス・裏庭・小さな采園など行事から日々の茶話会まで多目的に活用している。		全ユニットで活用している。今後も入居者だけでなく、地域の方・家族の方と自然な形で活用できるよう今後も発展させていきたい。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目			回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

項 目			回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	①
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	①

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は厚生労働省のグループホームモデル事業として始まりました。専門医や認知紹介後の専門家による定期的な相談会もありサポート体制も充実しています。認知症の方が、地域の中で、尊厳を保ち生き生きとした自分を実現し暮らし続けるためにはどのような支援が必要かを念頭に置き考えてきました。思いのつく先はいつも家族です。ご本人の思いを第一に、家族の協力の下、それぞれのペースにあわせた日中の活性化も合わせ、安心した生活することが出来るよう職員が心をひとつにして努力しています。一階では、不安になり眠れない方もおられます。その方にふさわしい夜の過ごし方も視野に入れ日々の過ごし方について考える課題もあります。お一人一人が地域の中でありのままに安心して過ごして頂けるよう ケアの力を身につけ、その方に合ったさりげない支援に努めていきたいと思っております。